九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

『文苑英華』所収の杜甫詩文について（一）

静永, 健
九州大学大学院人文科学研究院文学部門 : 准教授 : 中国文学

https://doi.org/10.15017/13936

出版情報：文學研究. 106, pp.1-12, 2009-03-01. 九州大学大学院人文科学研究院
バージョン：
権利関係：

『文苑英華』所収の杜甫詩文について（一）

静　永　　健

詩聖、すなわち中国随一の詩人と云われ、こんにちもなお敬仰される盛唐の詩人杜甫（712～770）であるが、その詩文集は、いったい、何時、どこで、誰が編集し、これを世に残そうとしたのか。本稿は、この問題をめぐる序説である。

杜甫の詩文集は、一般に『杜工部集』と呼ばれる。そのうち、現存する最も古いテキストは北宋時代の王洙（997～1057）が編集した二十巻本で、その序文には宝元二年（1039）の王洙の署名が見える[(1)]。その後、彼の詩集は、中国の各地、そして各時代においてさまざまな注釈を施されて出版され現在にも伝わっているが[(2)]、その諸本は、大方においてこの王洙本を基本としているのである[(3)]。しかし王洙本の成立以前、つまり杜甫逝去より北宋前期までの約二七〇年間、その詩文は、いったいどのように伝えられていたのであろうか。そして、その本（恐らくは手書きによる写本）は、どのような体裁で、しかもどのような本文であったのだろうか。このことについては、従来より幾つかの推測はあるものの、いまだ具体的な研究調査が行われていないのが実情である[(4)]。

だがここにその空白を填める恰好の文献資料がある。宋代草創期と言える太平興国七年（982）九月に編集が開始され、雍熙三年（986）十二月に完成した宋太宗（趙匡義）勅撰の『文苑英華』一千巻である。この総集は、六朝梁・昭明太子撰『文選』の後を継ぎ、六朝後半期から唐五代の詩文を収録する一大詞華集である[(5)]。

該書が杜甫詩研究に特に有効であるのは、先に述べた王洙本成立以前の杜甫の作品の流伝状況が、具体的に（本文の字句異同のレベルにおいてではあるが）明らかにできるという点にある。しかしこれまで『文苑英華』を用いての文学作品の本文研究は、あまり活発とは言えない状況にあった。

その理由は、『文苑英華』そのものにも存在した。

現在、私たちが一般に目睹する『文苑英華』影印本[6]は、宋版の部分と明版の部分とを取り混ぜたもので、宋刊本の本文の全容がつかめなかったこと、また、宋版・明版を問わず『文苑英華』自体に、明らかな誤写が含まれている場合があり、そのことから、『文苑英華』に見える本文の信用度があまり芳しいものではなかったこと等である。しかし『文苑英華』に収録される作品の本文は、中国北宋初期に伝来した「唐鈔本」の本文に拠るものであり、おさおさ忽せにできぬ部分が存するのである[7]。

実際に『文苑英華』に収録される杜甫詩において、一例を挙げよう。

丞相祠堂何處尋	丞相の祠堂　何れの処にか尋ねん。
錦官城外柏森森	錦官城外　柏森森たり。
映階碧草自春色	階に映ずる碧草　おのづから春色、
隔葉黄驪空好音	葉を隔つる黄驪　むなしく好音。
三顧頻繁天下計	三顧頻繁なり　天下の計、
兩朝開濟老臣心	両朝　開済す　老臣の心。
出師未捷身先死	出師　いまだ捷たざるに　身は先づ死し、
長使英雄涙滿襟	とこしへに英雄をして　涙　襟に満たしむ。

後年『唐詩三百首』にも採録される杜甫の代表作「蜀相」詩である。この詩は、先述の王洙本では巻十一、また清代の仇兆鰲『杜詩詳注』（以下『詳注』と略す）では巻九に収められている。王洙本、『詳注』本ともに、該詩は「蜀相」と題している。しかし『文苑英華』巻三二〇（郊祀・祠廟部）は、

この詩を収めて唯一「蜀相廟」と題するのであって（傍点は筆者、以下同）。これは、僅一字ではあるが、こんにちの杜詩集諸本いずれもが指摘せぬ貴重な異文となっている。

しかも該詩の題は、あるいは元来「廟」字があった可能性が高い。それは、該詩の内容が、まさしく成都郊外の「諸葛亮廟」を拝訪しての作品であること（従って『文苑英華』は祠廟の部に配列）のほか、中唐の韓愈（768～824）が編述したとされる『順宗実録』中の次の記事に該詩を引用して「諸葛亮廟に題す」と記していることにも一致するからである。

> 上疾久不瘳、内外皆欲上早定太子位、叔文黙不發議。已立太子、天下皆喜、而叔文獨有憂色。常吟杜甫題諸葛亮廟詩末句云、「出師未用身先死、長使英雄涙滿襟。」因歔欷流涕。聞者咸竊笑之。
>
> 上（順宗皇帝）疾久しくして瘳えず、内外みな上の早に太子の位を定めんことを欲す、叔文　黙して議を発せず。已て太子を立つるに、天下みな喜ぶも、叔文のみ独り憂色有り。常に杜甫の《題諸葛亮廟》詩の末句に云ふ「出師未だ用ゐられずして[8]身は先づ死し、長へに英雄をして涙襟に満たしむ」を吟じ、因りて歔欷流涕せり。聞く者みな窃かに之れを笑ふ。（韓愈『順宗実録』巻五）

本書は貞元二十一年（805）正月二十六日に即位し、同年八月四日に退位した順宗皇帝の記録であり、引用部分は、その側近であった王叔文の一挿話である。文献上において杜詩の流行が確認できる最も早い資料の一つである。

なお、この挿話は、宋代に編集された『冊府元亀』（巻480台省部姦邪篇）、『旧唐書』王叔文伝（巻135）、『新唐書』王叔文伝（巻168）、そして『資治通鑑』唐紀52（巻236）にも引用されており、それぞれ少しずつ異同があるが、おおよそにおいて「廟」あるいは「祠堂」の文字があったことが推測できるのである。

・常吟杜甫題諸葛亮詩　（『冊府元亀』）[9]
・但吟杜甫題諸葛亮祠堂詩　（『旧唐書』・『資治通鑑』）
・誦杜甫諸葛祠詩以自況　（『新唐書』）

このように『文苑英華』に採録される杜甫の詩文は、唐後半期より北宋初期までに伝えられた、言わば「空白期間」の本文を伝える、極めて重要な資料なのである。

なお近年、この『文苑英華』の本文校訂を進める上での貴重な研究成果が公刊された。近代中国の書誌学者傅増湘（1872～1949）が『文苑英華』の明鈔本によって本文を校訂した『文苑英華校記』（全10冊、北京図書館出版社、2006年）である。本書は、傅氏が中国に残存する「宋刊本文苑英華」（残存140巻、本稿注６参照）と「明刊本文苑英華」、そして現在中国国家図書館に所蔵される「明鈔本文苑英華」との校勘結果を記したものである。私たちは今後、『文苑英華』の本文を見るに当たっては、是非ともこの明鈔本[10]との校合を参照すべきである。これによって明刊本の誤刻を改めることができるからである。

さて、以上のような参考書を用い、筆者は、以下数号にわたって『文苑英華』所収の杜甫の作品について、その本文異同を校勘し、わたくしの校定結果を示したいと思う。筆者の不注意による更なる誤謬が生まれる場合もあるかもしれないが、杜甫研究の新たな研究材料を提供すべく、ここに報告する次第である。

まず本稿は、『文苑英華』に収められる杜甫の作品を一覧表として示す。詩文合計259首。詩人としては、白居易に次いで多くの作品が採録されている。なお私見では、この『文苑英華』編集時に使用された「杜甫集」（以下、英華本と仮称する）は、先述の王洙編集の『杜工部集』（王洙本）とほぼ同規模の杜甫の全集であったと推定される。それは、この英華本の杜甫の作品は、以下に分布表を示すように、王洙本二十巻のすべての巻に亘っているか

らである。

『文苑英華』所収作品の宋本（王洙本）における分布

巻１	巻２	巻３	巻４	巻５	巻６	巻７	巻８	巻９	巻10	
18	14	15	12	15	3	23	18	14	31	
巻11	巻12	巻13	巻14	巻15	巻16	巻17	巻18	【巻19】	【巻20】	佚
17	12	5	6	8	6	9	10	8	8	7

＊【　】のついた第19・20巻は散文。

杜甫の詩歌は、諸本いずれにおいても、まず形態において古体詩・近体詩に大きく二分割し、そして、以下杜甫の移動した地点に沿って、ほぼ製作年代順に配列されている。従って、もし上掲の分布表に一巻でも「０」の数字が見えた場合、英華本の杜甫詩集は、その時期の彼の作品を目睹していない可能性が生じるのである。しかし、結果は以上の通りであって、杜甫の全生涯の作品を網羅していることが判明するのである。

このことは、更に後代において、杜甫の年譜を商榷し、その作品をほぼ編年順に配列[11]している『杜詩詳注』での分布を調べることによっても再確認できる。

『文苑英華』所収作品の『杜詩詳注』における分布

巻１	巻２	巻３	巻４	巻５	巻６	巻７	巻８	巻９	巻10	巻11	巻12
6	12	11	10	17	18	8	7	14	19	11	11
巻13	巻14	巻15	巻16	巻17	巻18	巻19	巻20	巻21	巻22	巻23	【巻24/25】
8	8	11	9	5	4	3	6	13	25	7	16

＊【　】のついた第24・25巻は散文。

杜甫の詩文集は、北宋の王洙が編集する以前、すでにその全生涯の作品を網羅したものが成立していたように推測される。そして、その一本の残像が、間違いなくこの「英華本」杜甫集に保存されていると考えられるのである。

注

（１） 民国・張元済編集『続古逸叢書』（上海商務印書館、1957年）所収。
原本は上海図書館所蔵。なお、本書は王洙の編集本を王祺が入手し、嘉祐四年（1059）蘇州にて刊刻したもの（巻末に王祺の「後記」がある）を、さらに清朝の蔵書家の毛扆が、その工房（汲古閣）において康熙三十八年（1699）に重鈔補刻したものである。

（２） 例えば黄永武編『杜詩叢刊』（台湾・大通書局、1974年）には33種、吉川幸次郎編『杜詩又叢』（中文出版社、1977年）には７種の杜甫集の版本（一部に手鈔本を含む）が集められている。

（３） 王洙の「杜工部集序」によれば、彼は各地に伝存する杜甫の詩文集をあつめ、重複する作品を取り除いて「1405首（古体詩399首・近体詩1006首）」の詩を都合十八巻にまとめ、そして散文集二巻を併せて二十巻としたと述べている。そして、その際に蒐集した杜甫集は全部で「九十九巻」にのぼったとし、その目録を小字で以下のように注記している。ちなみに、以下を合計すると「八十九巻」となる。
古本二巻　蜀本二十巻　集略十五巻　樊晃序小集六巻
孫光憲序二十巻　鄭文宝序少陵集二十巻　別題小集二巻
孫僅一巻　雑編三巻

（４） 唐の潤州刺史であった樊晃（その在任期間は大暦五年～六年：770～771）は自ら「杜工部小集」という杜詩選集を編集している。現在は樊晃の序文のみが残っているが、そこに「（杜甫の）文集六十巻、江漢の南に行なわる」とあり、杜甫の死没直後には何らかの形でその遺稿が編集されていたことが判明している。しかし、それが誰によって行なわれ、何故「江漢の南」一帯に広まっていったのかは不明である。またそれが果たして「六十巻」もの分量があったのかも不明（数字そのものについては誤写・誤伝の可能性は否めない）。これらのことに関しては、一昨年の日本中国学会大会（第59回）において「九世紀における杜甫詩集の伝播について」と題して私見を口頭発表した。後日、論文としても発表する予定である。

（５） 花房英樹「文苑英華の編纂」（京都大学人文科学研究所「東方学報」第19号、1950年）、凌朝棟『文苑英華研究』（上海古籍出版社、2005年）等を参照。

（６） 北京・中華書局1966年影印出版『文苑英華』（全六冊）。本書の影印部分は、次の二種類の版本を併せたものである。
Ａ．南宋・嘉泰元年～四年（1201～04）周必大刻本。
十行二十字、白口左右双辺。
Ｂ．明・隆慶元年（1567）胡維新、戚継光刻本。
十一行二十二字、白口四周単辺。
全一千巻におよぶ本書の影印のうち、Ａ本の部分は残存部分が極めて少な

く、僅かに以下の140巻分（北京・中国国家図書館所蔵本）に過ぎないが、貴重である。

〔A本影印の部分〕

巻201～210　詩／楽府十～十九
巻231～240　詩／隠逸二・寺院（塔附）一～七・訓和一
巻251～260　詩／寄贈五～十四
巻291～300　詩／行邁（館駅附）三～十・軍旅一～二
巻601～700　表・牋・状・檄・露布・弾文・移文・啓・書・疏・序

（7）　たとえば『文苑英華』中、最も作品収録数の多い白居易の詩文について言えば、『文苑英華』の本文は、往々にして我が国に伝存する「旧鈔本白氏文集」（神田本、金沢本など）に一致し、逆に南宋刊本である紹興本や那波本とは異なる部分がある。このことは『文苑英華』の編纂された頃が、いまだ多くの「唐鈔本」が利用できる時期にあったことに拠る。太田次男博士の『旧鈔本を中心とする白氏文集本文の研究』（勉誠出版、1997年）等を参照されたい。

　また、白居易以外の作品についても、日本に残る旧鈔本系統の本文と一致する場合があることは、静永「千載佳句所引耿湋詩異文考」（『中唐文学会報』第13号、2006年）において、中唐の詩人耿湋の作品について例証した。

（8）　この「未用」の字、杜甫詩集諸本は「未捷」に作る。思うに、これは現在伝わる『順宗実録』本文の誤写であって、本来は「未捷」であったであろう。この実録の文章をそのまま引用する『旧唐書』王叔文伝、『資治通鑑』唐紀、『冊府元亀』台省部はすべて「未捷」に作っているからである。

（9）　この『冊府元亀』のみ「廟」および「祠堂」の文字が無いが、「題」字を冠することから、やはり杜甫が成都の諸葛亮廟に参詣し、その廟所の壁に題（かきつけ）したという意味を持つと考えられる。やはり本来、この杜甫詩のタイトルは「蜀相廟」あるいは「題蜀相廟」、もしくは「題諸葛亮廟（祠堂）」であった可能性が高い。

(10)　なお『文苑英華』明鈔本は我が国にも数点存在する。そのうち静嘉堂文庫所蔵の明鈔本の一部分は、神鷹徳治「静嘉堂文庫蔵明鈔本『文苑英華』所載「新楽府」（凡二十一首）影印」（実践女子大学「年報」21、2002年）によって紹介されている。

(11)　『杜詩詳注』の詩集部分（巻１～23）を大まかに示すと、次のように配列されている。

巻１～巻６　青壮年期および安禄山長安陥落（756年）前後
巻７～巻９　華州から秦州そして成都に辿り着くまで
巻10～巻14　成都および四川省内流寓時代
巻15～巻20　冀州時代
巻21～巻23　冀州を去り江陵、そして衡州にて没するまで

『文苑英華』所収杜甫詩文一覧

	杜　甫　作　品　名	文苑英華　巻数・目	王洙本巻数	詳注　巻数	備　　考
001	進三大禮賦表 天寶十三載	巻 54　禮祀	巻 19	巻 24	001 ～ 006 は賦。
002	朝獻太清宮賦	巻 54　禮祀	巻 19	巻 24	
003	朝享太廟賦	巻 54　禮祀	巻 19	巻 24	
004	有事于南郊賦	巻 54　禮祀	巻 19	巻 24	
005	天狗賦 并序	巻 131 鳥獸	巻 19	巻 24	＊杜甫の現存賦はあと「封西岳賦
006	鵰賦 并進表	巻 136 鳥獸	巻 19	巻 24	并進表」を加えた七作品。
007	秋月（天上秋期近）	巻 151 天部・月	巻 10	巻 05	
008	秋月（四更山吐月）	巻 151 天部・月	巻 16	巻 17	
009	新月（光細弦豈 集作欲 上）	巻 151 天部・月	巻 10	巻 07	王洙本等題作「初月」。
010	江邊星月二首①（驟雨清秋夜）	巻 152 天部・星	巻 17	巻 21	
011	②（江月辭風檻 集作禮）	巻 152 天部・星	巻 17	巻 21	王洙本作纔。
012	喜雨（南國旱無雨）	巻 153 天部・喜雨	巻 13	巻 14	
013	春夜雨（好雨知時節）	巻 153 天部・雜題雨	巻 12	巻 10	王洙本等作「春夜喜雨」。
014	朝雨（涼風曉蕭蕭）	巻 153 天部・雜題雨	巻 11	巻 10	涼風…→王洙本作涼気晩蕭蕭
015	雨（萬木雲深隱）	巻 153 天部・雜題雨	巻 15	巻 15	
016	黄梅雨（南京西 集作星 浦市 集作道）	巻 153 天部・雜題雨	巻 11	巻 09	王洙本等作「梅雨」。
017	雨不絶（鳴雨既過小雨微／集作漸細微）	巻 153 天部・雜題雨	巻 14	巻 15	
018	對雪（北雪犯長沙）	巻 154 天部・對雪	巻 18	巻 23	
019	對雪（戰國多新鬼）	巻 154 天部・對雪	巻 09	巻 04	
020	舟中夜雪懷盧侍郎 集作御	巻 155 天部・詠雪雜題	巻 18	巻 23	王洙本等作「舟中…有懷盧十四侍御弟」
021	雨晴 一作秋霽 二首①（天外 一作源 秋…）	巻 155 天部・晴霽	巻 10	巻 07	
022	②（雨晴山不改）	巻 155 天部・晴霽	巻 15	巻 15	詳注作「雨時 一作晴」
023	晚晴二首①（村晚驚風度）	巻 155 天部・晴霽	缺	巻 10	
024	②（返照斜初徹 集作散）	巻 155 天部・晴霽	巻 15	巻 15	
025	晴二首①（久雨巫山暗）	巻 155 天部・晴霽	巻 14	巻 15	
026	②（啼鳥爭引子）	巻 155 天部・晴霽	巻 14	巻 15	
027	院中晚晴省 集作懷 西郭茅舍	巻 155 天部・晴霽	巻 13	巻 14	第一句「天際 集作幕府 秋風日」
028	守風銅官渚	巻 156 天部・雜題風	巻 18	巻 22	王洙本等作「銅官渚守風」
029	雲（龍似 集作以 瞿唐會）	巻 156 天部・雲	巻 16	巻 20	
030	天河（常時任顯晦）	巻 156 天部・天河	巻 10	巻 07	
031	元日（近聞韋氏妹）	巻 157 天部・元日	巻 09	巻 04	
032	一百五日夜對月（無家對寒食）	巻 157 天部・寒食	巻 09	巻 04	
033	清明（此身飄泊苦西東）	巻 157 天部・寒食	巻 18	巻 22	王洙本等作「清明二首其二」
034	秋興（聞道長安似奕棋）	巻 158 天部・秋	巻 15	巻 17	王洙本等作「秋興八首其四」
035	九日（舊與蘇司業）	巻 158 天部・九日	巻 15	巻 20	王洙本等作「九日五首其三」
036	九日藍田崔氏莊	巻 158 天部・九日	巻 09	巻 06	
037	九日登梓州城	巻 158 天部・九日	巻 12	巻 11	『英華』諸版本本文欠、旧鈔本補注。
038	孟冬（殊俗還多事）	巻 158 天部・冬	巻 16	巻 20	
039	至日遣興寄北省舊閣老兩院故人	巻 158 天部・冬	巻 10	巻 06	
040	白鹽山（卓立群峯外）	巻 159 地部・山	巻 16	巻 15	
＊	〔閬山〕→巻 342	巻 159 地部・山			＊重複。英華明版は本文削除。
041	丈人山（自爲青城客）	巻 159 地部・山	巻 04	巻 10	
042	望南岳山（南岳配朱鳥）	巻 160 地部・南岳	巻 08	巻 22	王洙本等作「望岳」
043	萬丈潭（青溪合氣寞）	巻 163 地部・潭	巻 03	巻 08	
044	春水（三月桃花浪）	巻 163 地部・水	巻 11	巻 10	
045	鄭駙馬池臺喜遇鄭廣文同飲	巻 165 地部・游泛	巻 10	巻 05	
046	早朝大明宮	巻 190 朝省・趨朝	巻 10	巻 05	＊賈至・王維・崔顥（岑參）も併録し「附見杜集」との注あり。
047	紫微殿退朝口號（戸外昭容紫袖垂）	巻 190 朝省・趨朝	巻 10	巻 06	紫微殿→紫宸殿
048	喜達行在所三首①（西憶岐陽信）	巻 190 朝省・趨朝	巻 10	巻 05	
049	②（秋 集作愁 思胡笳夕）	巻 190 朝省・趨朝	巻 10	巻 05	
050	③（死去憑誰報）	巻 190 朝省・趨朝	巻 10	巻 05	
051	晚出左掖（晝刻傳呼淺）	巻 191 朝省・寓直	巻 10	巻 06	

	杜　甫　作　品　名	文苑英華　巻数・目	王洙本巻数	詳注　巻数	備　　考
052	春夜宿左省（花隱掖垣暮）	巻 191 朝省・寓直	巻 10	巻 06	王洙本等作「春宿左省」
053	少年行三首①（馬上誰家白面郎）	巻 194 樂府・少年行	巻 11	巻 10	英華注：杜集作臨街下馬、此云臨軒下馬。杜集作傾銀注瓦、此云傾銀注玉。皆當以此書爲正。蓋謬爲俗子改易此、所以重古本也。
054	②（莫笑田家老瓦盆）	巻 194 樂府・少年行	巻 11 二首①	巻 10 二首①	
055	③（巢燕養兒渾去盡）	巻 194 樂府・少年行	巻 11 二首②	巻 10 二首②	/詳注作臨階。
056	出塞五首①（戚戚去故里）	巻 197 樂府・出塞	巻 03	巻 02	「前出塞九首」①
057	②（出門日已遠）	巻 197 樂府・出塞	巻 03	巻 02	同 ②
058	③（迢迢萬餘里）	巻 197 樂府・出塞	巻 03	巻 02	同 ⑤
059	④（挽弓當挽強）	巻 197 樂府・出塞	巻 03	巻 02	同 ⑥
060	⑤（從軍十年餘）	巻 197 樂府・出塞	巻 03	巻 02	同 ⑨
061	同前三首一作後出塞①（男兒生世間）	巻 197 樂府・出塞	巻 03	巻 04	「後出塞五首」①
062	②（古人重守邊）	巻 197 樂府・出塞	巻 03	巻 04	同 ③
063	③（獻凱日繼踵）	巻 197 樂府・出塞	巻 03	巻 04	同 ④
064	苦戰行（苦戰身死馬將軍）	巻 198 樂府・苦戰行	巻 05	巻 11	
065	短歌二首①（前者途中一相見）	巻 203 樂府・短歌	巻 05	巻 12	英華題注：送祁録事歸合州因寄蘇使君。
066	②（王郎酒酣拔劍…）	巻 203 樂府・短歌	巻 05	巻 21	英華題注：贈王郎司直。
067	聽馬二首①（鄧公馬癖人共知）	巻 209 樂府・聽馬	巻 01	巻 04	＊英華巻 344 重出「聽馬歌」
068	②（安西都護胡青聽）	巻 209 樂府・聽馬	巻 01	巻 02	＊英華巻 344 重出「高都護聽馬行」
069	白馬（白馬東北來）	巻 209 樂府・白馬	巻 08	巻 23	
070	苦熱（七月六日苦炎蒸）	巻 210 樂府・苦熱	巻 02	巻 06	英華題注：甫時爲華州功曹。王洙本等題「早秋苦熱堆案相仍」
071	苦寒前二首①（漢時長安雪一丈）	巻 210 樂府・苦寒	巻 07	巻 21	王洙本等作「前苦寒行二首」
072	②（去年白帝雪在山）	巻 210 樂府・苦寒	巻 07	巻 21	
073	苦寒後二首①（南紀巫廬瘴不絶）	巻 210 樂府・苦寒	巻 07	巻 21	王洙本等作「後苦寒行二首」
074	②（曉一作晚來江邊失大木）	巻 210 樂府・苦寒	巻 07	巻 21	
075	憶昔行（憶昔北尋小有洞）	巻 211 樂府・憶昔行	巻 08	巻 21	
076	偪仄行贈畢四爕（偪仄何偪仄）	巻 211 樂府・偪仄行	巻 02	巻 06	＊英華巻 350 重出。
077	夜聞篴篥（夜聞篴篥滄江上）	巻 212 音樂・雜樂	巻 08	巻 22	
078	聽楊氏歌（佳人絶代歌）	巻 213 音樂・歌	巻 07	巻 17	
079	夜宴左氏莊（風林纖月落）	巻 214 人事・宴集	巻 09	巻 01	
080	上巳日徐司錄林園宴集	巻 214 人事・宴集	巻 17	巻 21	
081	崔駙馬山亭醼集（蕭史幽棲地）	巻 214 人事・宴集	巻 09	巻 03	
082	陪李北海宴歷下亭	巻 214 人事・宴集	巻 01	巻 01	
083	湘江宴餞裴二端公赴道州	巻 214 人事・宴集	巻 08	巻 22	
084	宴王使君宅題二首①（漢主追韓信）	巻 214 人事・宴集	巻 17	巻 22	
085	②（汎愛容霜鬢、晉歆上夜關）	巻 214 人事・宴集	巻 17	巻 22	關→英華注「閑、非也」
086	陪章侍御宴南樓得風字	巻 214 人事・宴集	巻 12	巻 12	王洙本等作「陪章留後侍御宴…」
087	曲江陪鄭八丈南史飲	巻 214 人事・宴集	巻 10	巻 06	
088	別贊上人（百川日東流）	巻 219 釋門	巻 03	巻 08	
089	贈衛八處士	巻 230 隱逸・處士	巻 01	巻 06	
090	寄張十二山人彪（獨臥嵩陽客）	巻 231 隱逸・山人	巻 10	巻 08	
091	山寺（野寺殘僧少）	巻 234 寺院	巻 10	巻 07	
092	奉和裴十四迪新津山寺寄王侍郎	巻 234 寺院	巻 11	巻 09	王洙本等無「奉」字。
093	題忠州龍興寺所居院壁	巻 234 寺院	巻 14	巻 14	
094	宿贊公房（杖錫何來久集作此）	巻 234 寺院	巻 10	巻 07	
095	上兜率寺（兜率知名寺）	巻 234 寺院	巻 12	巻 12	
096	秦州雜詩（秦州城北寺）	巻 234 寺院	巻 10	巻 07	二十首其二
097	法鏡寺（身危適他州）	巻 234 寺院	巻 03	巻 08	
098	同諸公登慈恩寺塔	巻 234 寺院（塔附）	巻 01	巻 02	
099	奉和薛十二丈判官見贈	巻 242 酬和	巻 07	巻 19	
100	酬韋韶州見寄（養拙江湖外）	巻 242 酬和	巻 18	巻 22	
101	答高使君見贈（古寺僧牢落）	巻 242 酬和	巻 11	巻 09	王洙本等作「酬……相贈」
102	奉酬李都督表文早春作（力疾坐清曉）	巻 242 酬和	巻 11	巻 09	

『文苑英華』所収の杜甫詩文について（一）

	杜　甫　作　品　名	文苑英華 巻数・目	王洙本巻数	詳注　巻数	備　　考
103	投贈韋左相（鳳歴軒轅紀）	巻 251 寄贈	巻 09	巻 03	王洙本等作「上韋左相二十韻」
104	贈韋左丞丈濟（左轄頻虛位）	巻 251 寄贈	巻 09	巻 01	＊英華巻 251 は杜甫 13 李白 18 のみ。
105	奉贈嚴八閣老（扈從登黃閣有異同）	巻 251 寄贈	巻 10	巻 05	
106	路逢襄陽楊少府入京城敘題四韻附呈楊四員外紹甫赴華州日許員外爲求茯苓	巻 251 寄贈	巻 10	巻 06	
107	寄高三十五詹事（安穩高詹事）	巻 251 寄贈	巻 10	巻 06	
108	寄李十二白（昔年有狂客）	巻 251 寄贈	巻 10	巻 08	
109	贈比部蕭郎中十兄（有美生人傑）	巻 251 寄贈	巻 09	巻 01	
110	同元使君舂陵行井序	巻 251 寄贈	巻 06	巻 19	
111	寄薛三丈郎中據（人生無賢愚）	巻 251 寄贈	巻 07	巻 18	
112	贈虞十五司馬（遠師虞祕監）	巻 251 寄贈	巻 17	巻 10	
113	戲簡鄭廣文（廣文到官舍）	巻 251 寄贈	巻 01	巻 03	
114	奉贈李八丈判官曙（我丈時英特宗枝）	巻 251 寄贈	巻 08	巻 23	
115	毒熱寄簡崔評事十六弟（火火運金氣）	巻 251 寄贈	巻 06	巻 15	
116	奉送郭中丞兼太僕卿充隴右節度使三十韻	巻 269 送行	巻 10	巻 05	＊英華巻 269 は杜甫・李白ほか。
117	送陵州路使君赴任（王室比多難）	巻 269 送行	巻 12	巻 12	
118	送梓州李使君赴集作之任	巻 269 送行	巻 13	巻 11	
119	鄜城西原送李判官兄武判官弟赴成都	巻 269 送行	巻 12	巻 12	
120	從江送衛十八倉曹還京因寄岑中允參范郎中季明（遲日溪江水）	巻 269 送行	巻 12	巻 12	從江、王洙本等作泛江（泛舟）、衛十八、王洙本等作魏十八。
121	泛江送客（二月頻送客）	巻 269 送行	巻 12	巻 12	
122	送路六侍御入朝	巻 269 送行	巻 12	巻 12	
123	送李校集作祕書赴杜相公幕	巻 269 送行	巻 15	巻 19	
124	送翰林張司馬南海勒碑相國製文	巻 269 送行	巻 10	巻 06	
125	送衛二十四司直充嶺南掌選崔郎中判官兼寄韋韶州	巻 269 送行	巻 18	巻 23	衛二十四、王洙本等作魏二十四。
126	夏日楊長寧宅送崔侍御常正字入京	巻 269 送行	巻 17	巻 21	
127	送孔巢父遊江東兼呈李白	巻 269 送行	巻 01	巻 01	
128	送高司直尋封閬州	巻 269 送行	巻 07	巻 21	
129	送許八拾遺歸江寧覲省	巻 284 送行・送人覲省	巻 10	巻 06	
130	送韓十四江東覲省	巻 284 送行・送人覲省	巻 11	巻 10	
131	暮秋將歸秦留別湖南幕府親友	巻 286 留別	巻 18	巻 23	
132	留別嚴賈二國老兩院遺補諸公	巻 286 留別	巻 10	巻 05	
133	別董頤（窮冬急風水）	巻 286 留別	巻 08	巻 22	
134	遠遊（江闊浮高棟）	巻 291 行邁	巻 16	巻 22	
135	晚行口號（三川不可望集作到）	巻 291 行邁	巻 10	巻 05	
136	早發射洪縣南途中江上作	巻 291 行邁	巻 05	巻 11	
137	發同谷縣紇元二年自隴右赴劍南	巻 291 行邁	巻 03	巻 09	
138	早行（歌哭俱在曉）	巻 291 行邁	巻 08	巻 22	
139	次晚洲（參錯雲石稠）	巻 291 行邁	巻 08	巻 22	
140	過津口（南岳自茲近）	巻 291 行邁	巻 08	巻 22	
141	早發（有求常百慮）	巻 291 行邁	巻 08	巻 22	
142	次空靈岸（沄沄逆素浪）	巻 291 行邁	巻 08	巻 22	
143	宿花石戍（午辭空靈岑）	巻 291 行邁	巻 08	巻 22	
144	贈獻納使起居田舍人	巻 296 行邁・奉使	巻 09	巻 03	
145	奉濟驛重送嚴公（遠送從此別）	巻 297 行邁・館驛	巻 12	巻 11	
146	山館（南國晝多霧）	巻 297 行邁・館驛	巻 13	巻 22	詳注題作「移居公安山館」
147	通泉驛南去通泉縣十五里山水作	巻 297 行邁・館驛	巻 05	巻 11	
148	投贈哥舒開府翰二十韻	巻 300 軍旅・邊將	巻 09	巻 03	
149	八哀詩並序①贈司空王公［思禮］	巻 301 悲悼・追述	巻 07	巻 16	
150	八哀詩②故司徒李公［光弼］	巻 301 悲悼・追述	巻 07	巻 16	
151	八哀詩③贈左僕射鄭國公嚴公［武］	巻 301 悲悼・追述	巻 07	巻 16	
152	八哀詩④贈太子太師汝陽郡王［璡］	巻 301 悲悼・追述	巻 07	巻 16	
153	八哀詩⑤贈祕書監江夏李公［邕］	巻 301 悲悼・追述	巻 07	巻 16	

	杜　甫　作　品　名	文苑英華　巻数・目	王洙本巻数	詳注　巻数	備　　考
154	八哀詩⑥故祕書少監武功蘇公[源明]	巻 301 悲悼・追述	巻 07	巻 16	
155	八哀詩⑦故著作郎貶台州司戸滎陽鄭公[虔]	巻 301 悲悼・追述	巻 07	巻 16	
156	八哀詩⑧故右僕射相國曲江張公[九齡]	巻 301 悲悼・追述	巻 07	巻 16	
157	哭李常侍嶧（一代風流盡）	巻 303 悲悼・哭人	巻 18	巻 22	二首其一
158	哭嚴僕射歸櫬（素幔隨流水）	巻 303 悲悼・哭人	巻 14	巻 14	
159	哭李尚書之芳（漳濱與蒿里）	巻 303 悲悼・哭人	巻 17	巻 22	
160	奉漢中王手札報韋侍御蕭尊師亡	巻 303 悲悼・哭人	巻 16	巻 16	
161	行次昭陵十二韻	巻 306 悲悼・墳墓	巻 09	巻 05	
162	陳拾遺故宅（拾遺昔日居）	巻 307 悲悼・第宅	巻 05	巻 11	
163	過故斛斯校書莊没後方受一官公名融	巻 307 悲悼・第宅	巻 13	巻 14	二首其一
164	瞿唐懷古（西南萬壑注）	巻 308 悲悼・懷古	缺	巻 18	
165	九成宮（蒼山入百里）	巻 311 居處・九成宮	巻 02	巻 05	
166	玉華宮（溪回松風長）	巻 311 居處・宮	巻 02	巻 05	
167	宣政殿退朝晚出左掖	巻 311 居處・殿	巻 10	巻 06	
168	登岳陽樓望洞庭（昔聞洞庭水）	巻 312 居處・樓	巻 18	巻 22	王洙本等作「登岳陽樓」
169	登兗州城樓（東郡趨庭日）	巻 312 居處・樓	巻 09	巻 01	
170	題新津北橋樓得郊字	巻 312 居處・樓	巻 11	巻 09	
171	琴臺（茂陵多病後）	巻 313 居處・臺	巻 11	巻 10	
172	鳳凰臺山峻人不至高頂	巻 313 居處・臺	巻 03	巻 08	
173	西閣曝背集作月	巻 314 居處・閣	巻 07	巻 18	王洙本等作「西閣曝日」
174	飛仙閣（出門山行窄）	巻 314 居處・閣	巻 03	巻 09	
175	龍門閣（清江下龍門）	巻 314 居處・閣	巻 03	巻 09	
176	草堂（昔我去草堂）	巻 314 居處・堂	巻 05	巻 13	
177	登牛頭山亭子（路出雙林外）	巻 315 居處・亭	巻 12	巻 12	
178	暮春陪李尚書李中丞過鄭監湖亭泛舟	巻 315 居處・亭	巻 17	巻 12	
179	客亭（秋窓猶曙色）	巻 315 居處・亭	巻 12	巻 11	
180	西郊（時出碧雞坊）	巻 318 居處・村墅	巻 11	巻 09	
181	南隣（錦里先生烏角巾）	巻 318 居處・村墅	巻 11	巻 09	
182	村夜（風色蕭蕭暮江頭）	巻 318 居處・村墅	巻 11	巻 09	
183	江村（清江一曲抱村流）	巻 318 居處・村墅	巻 11	巻 09	
184	羌村三首①（崢嶸赤雲西）	巻 318 居處・村墅	巻 02	巻 05	明版英華誤作「荒村三首」
185	②（晚歲迫偷生）	巻 318 居處・村墅	巻 02	巻 05	
186	③（群雞忽亂叫）	巻 318 居處・村墅	巻 02	巻 05	
187	冬日洛城北謁玄元皇帝廟廟有吳道子畫壁圖	巻 320 郊祀・祠廟	巻 09	巻 02	
188	禹廟（禹廟空山裏）	巻 320 郊祀・祠廟	巻 14	巻 14	
189	蜀相廟（丞相祠堂何處尋）	巻 320 郊祀・祠廟	巻 11	巻 09	王洙本等作「蜀相」
190	四松（四松初移時）	巻 324 花木・松	巻 05	巻 13	
191	病橘（伊集作羣橘少生意）	巻 326 花木・甘橘	巻 04	巻 10	
192	除草（草有害於人）	巻 327 花木草附・衆草	巻 06	巻 14	
193	歸鴈（聞道今春鴈）	巻 328 禽獸・鴈	巻 18	巻 21	
194	孤鴈（孤鴈不飲啄）	巻 328 禽獸・鴈	巻 15	巻 17	
195	詠鸚鵡（鸚鵡含愁思）	巻 329 禽獸・鸚鵡	巻 15	巻 17	王洙本等作「鸚鵡」
196	鸂鶒（故使籠寬織）	巻 329 禽獸・鸂鶒	缺	巻 10	江頭五詠④
197	花鴨（花鴨無泥滓）	巻 329 禽獸・鵝鴨	缺	巻 10	江頭五詠⑤
198	螢火（幸因腐草出）	巻 329 禽獸蟲附・螢	巻 10	巻 07	
199	促織（促織甚微細）	巻 330 禽獸・蟲魚	巻 10	巻 07	
200	病馬（乘汝集作宿亦已久）	巻 330 禽獸・馬	巻 10	巻 08	英華校注「蕃劍」詩と併せて二首とす。
201	秋雨嘆三首①（雨中百草秋爛死）	巻 331 諷行・天	巻 01	巻 03	
202	②（關風長雨秋紛紛）	巻 331 諷行・天	巻 01	巻 03	
203	③（長安布衣無此數）	巻 331 諷行・天	巻 01	巻 03	
204	去秋行（去秋涪江木落時）	巻 331 諷行・四時	巻 05	巻 11	
205	兵車行（車轔轔馬蕭蕭）	巻 333 歌行・征戍	巻 01	巻 02	
206	觀公孫大娘弟子舞劍器行并序	巻 335 歌行・音樂下	巻 07	巻 20	
207	湖城東遇孟雲卿復歸劉顯宅宴飲因爲醉歌行	巻 336 歌行・酒	巻 02	巻 06	詳注題作「冬末以事之東都…」

	杜　甫　作　品　名	文苑英華　巻数・目	王洙本巻数	詳注　巻数	備　　考
208	蘇端薛復筵簡薛華醉歌	巻 336 歌行・酒	巻 02	巻 04	
209	醉歌行一作醉時歌贈廣文館鄭博士虔	巻 336 歌行・酒	巻 01	巻 03	王洙本等作「醉時歌」
210	醉歌行別從姪落第歸	巻 336 歌行・酒	巻 01	巻 03	
211	晦日賀蘭傳楊長史筵醉歌	巻 336 歌行・酒	巻 01	巻 02	王洙本等作「樂遊園歌」
212	醉歌行贈公安縣顏十少府	巻 336 歌行・酒	巻 08	巻 22	
213	古柏行（孔明廟前有老柏）	巻 337 歌行・草木	巻 04	巻 15	
214	李潮八分小篆歌	巻 338 歌行・書	巻 07	巻 18	
215	新畫山水障歌奉先尉劉卑宅作	巻 339 歌行・圖畫	巻 02	巻 04	王洙本等作「奉先尉劉少府新畫…」
216	戲題王宰畫山水圖歌	巻 339 歌行・圖畫	巻 04	巻 09	
217	韋諷錄事宅觀曹將軍畫馬圖歌	巻 339 歌行・圖畫	巻 04	巻 13	
218	天育驃圖集作騎歌	巻 339 歌行・圖畫	巻 01	巻 04	
219	丹青引贈曹將軍霸（將軍魏武之子孫）	巻 339 歌行・圖畫	巻 04	巻 13	
220	入秦行贈竇侍御時統檢察使	巻 340 歌行・雜贈	巻 05	巻 10	
221	徒步歸行贈李特進借馬	巻 340 歌行・雜贈	巻 02	巻 05	
222	贈嚴二別駕相逢集作從歌	巻 340 歌行・雜贈	巻 05	巻 11	王洙本「相從歌」、詳注「從事行…」
223	贈裴施州（廊廟之具裴施州）	巻 340 歌行・雜贈	巻 07	巻 20	王洙本等作「寄裴施州」
224	送顧八分文學適洪吉州	巻 341 歌行・送行	巻 08	巻 22	
225	惜別行送向卿進奉端午御衣赴上都	巻 341 歌行・走行	巻 08	巻 21	
226	惜別行送劉僕射判官	巻 341 歌行・走行	缺	巻 22	
227	虎牙行（北風歘吸吹南國）	巻 342 歌行・山	巻 07	巻 20	
228	閬山歌（閬州城東靈山白）	巻 342 歌行・山	巻 05	巻 13	もと英華巻 159 に重出。
229	閬水歌（嘉陵江色何所似）	巻 342 歌行・山	巻 05	巻 13	
230	石笋行（君不見益州城西門）	巻 342 歌行・石	巻 04	巻 10	
231	石犀行（君不見秦時蜀太守）	巻 342 歌行・石	巻 04	巻 10	
232	岳麓山道林二寺行（玉泉之南麓山殊）	巻 342 歌行・佛寺	巻 08	巻 22	
233	越王樓歌（綿州州府何磊落）	巻 343 歌行・樓臺宮閣	巻 05	巻 11	
234	發閬中歌（前有毒蛇後猛虎）	巻 343 歌行・經行	巻 05	巻 12	
235	沙苑行（君不見左輔白沙如白水）	巻 344 歌行・獸	巻 01	巻 03	
236	老集作瘦馬行（東郊老馬使我傷）	巻 344 歌行・獸	巻 02	巻 06	王洙本等作「瘦馬行」
237	李鄠縣丈人胡馬行（丈人駿馬名胡騮）	巻 344 歌行・獸	巻 02	巻 06	
＊	［駿馬歌］→巻 209	巻 344 歌行・獸			重複。英華明版は削除。
＊	［高都護驄馬行］→巻 209	巻 344 歌行・獸			重複。英華明版は削除。
238	朱鳳行（君不見瀟湘之山）	巻 345 鶚行・禽	巻 08	巻 23	
239	杜鵑行（君不見昔日蜀天子）	巻 345 鶚行・禽	巻 04	巻 10	
240	呀鶻行（病鶻卑飛俗眼醜）	巻 345 鶚行・禽	缺	巻 22	
241	義鶻行（陰崖二蒼鷹養子）	巻 345 鶚行・禽	巻 02	巻 06	
242	麗人行（三月三日天氣新）	巻 350 鶚行・雜歌下	巻 01	巻 02	
243	白絲行（繰絲須長不須白）	巻 350 鶚行・雜歌下	巻 01	巻 02	
244	憶昔行二首①（憶昔先皇巡朔方）	巻 350 鶚行・雜歌下	巻 04	巻 13	王洙本等作「憶昔二首」
245	②（憶昔開元全盛日）	巻 350 鶚行・雜歌下	巻 04	巻 13	
246	百憂集行（憶年十五心尚孩）	巻 350 鶚行・雜歌下	巻 04	巻 10	
＊	［徒步歸行］→巻 340	巻 350 鶚行・雜歌下			重複。英華明版は削除。
＊	［屈灰行］　→巻 210	巻 350 鶚行・雜歌下			重複。英華明版は削除。
247	負薪行（夔州處女髮半華）	巻 350 鶚行・雜歌下	巻 07	巻 15	
248	最能行（峽中丈夫絶輕死）	巻 350 鶚行・雜歌下	巻 07	巻 15	
249	狂歌行贈四兄（與兄行年校一歲）	巻 350 鶚行・雜歌下	缺	巻 14	
250	乾元元年華州試進士策問五道①	巻 474 策問	巻 20	巻 25	
～ 4	同②・同③・同④・同⑤	巻 474 策問	巻 20	巻 25	
255	爲夔州柏都督謝上表	巻 584 表・藩鎮謝官	巻 20	巻 25	
256	進封西嶽賦表玄宗	巻 610 表・進文章	巻 19	巻 24	
＊	［進鵰賦表玄宗］→巻 136	巻 610 表・進文章			重複。英華宋版は削除。
257	奉謝口勅放三司推問狀	巻 628 狀・謝恩	巻 20	巻 25	
258	畫馬讚	巻 784 讚・圖畫	巻 19	巻 24	
259	祭故相國清河房公文	巻 979 祭文・交舊	巻 20	巻 25	

（終）